

A. 日 時 2016年12月13日(火曜日) 18時00分～20時15分

B. 場 所 本会会議室

C. 出席者 松本主査 他7名

D. 提出資料《提出委員名も記入して下さい》

No. 16-01 : 第15回 性能評価法検討WG 議事録(案)

No. 16-02 : 非定常的な性状をもつ波形の解析結果について

No. 16-03 : 環境振動シンポジウム原稿粗々

## E. 審議事項

### 1. 議事録確認

A) 資料 No. 16-01 「第15回 性能評価法検討WG 議事録(案)」について報告

※ 議事録案確認

→ 承認された

### 2. 議論

A) 資料 No. 16-02 「非定常的な性状をもつ波形の解析結果について」について報告

※ 前回までに解析を行った2波から解析対象を増やし(7波)検証

→ 非定常的な鉛直振動に対して提案されている方法を適用した評価を試みた

→ 鉛直振動に対する検討では、知覚に関しては最大値の影響が大きく、継続時間の影響を加味してもより適切な評価になる訳ではない結果が得られており、今回提示された水平振動に対する結果も同様の傾向が見られる

→ 鉛直振動に対する検討では、継続時間を加味した評価に関しては、気になり具合、不快/不安等の心理量の評価の方がフィットする結果が得られているおり、水平でも同様の検討を行っているところである

※ 解析内容に関する議論

→ データに不明瞭な点があるので再度確認を行う(例:継続時間が10sを超える1.0Hz等の低振動数データにおいて、本来ならば低減補正は行われなければならないはずでは?等)

→ まずはP1、2) 1.0Hzのデータを再検証

## B) 資料 No. 16-03 「環境振動シンポジウム原稿粗々」について報告

## ※ 風振動分野におけるシンポジウム原稿について

- 表 1 の文言検討（将来的には鉛直振動の整合性に留意、ライン or 領域評価も検討）
- 図 4 の解説留意

## C) 環境振動シンポジウム原稿について議論

## ※ 水平振動について

- 指針策定の方針、手順の紹介をメインとする
- 現時点では風振動は定常的な振動として扱うが、今後突風等を対象とする場合があれば非定常的な振動として評価する必要があることを述べておく
- 風に起因する振動は低振動数域が主体となることから、例えば 2.5Hz 以下の評価レベルを用いて検討を行う、交通振動を対象とする場合には高振動数域も対象とし鉛直振動と同様に継続時間補正を行う
- 非定常的な振動の評価曲線はシンポジウムでは示さないこととする

## ※ 担当者ごとの執筆内容配分

- 評価分野第一発表者（風振動）にて「はじめに」「基本理念」等の発表を行う（以降の歩行振動/交通振動での重複は避ける）

## ※ 用語の定義

- 評価 I / II、評価 a/b 等（マトリックス横軸）は「評価レベル」と定義する

## 3. 次回以降の課題

## ※ 非定常水平振動に関する今後の課題

- データに不明瞭な点があるので再度確認、まずは P1、2) 1.0Hz のデータを再検証

## ※ シンポジウムに向けて

- 風振動：これまでの発表資料の高解像度版の図表の提供は作成者に別途依頼、表 1 の文言検討
- 床振動：これまでの提案をもとに発表、基本理念等は風振動分野にて発表
- 交通振動：これまで提供の資料をもとに発表
- 各分野ともに用語の統一をはかる（「評価レベル」等）
- 締め切り：12月16日（遅くとも12月20日）までに国松主査宛に原稿を送付

次回の WG は 2017 年 3 月 1 日（水曜日）18 時より本会会議室開催いたします。

資料を提出される方は、あらかじめ準備(9部)されるか、もしくは2日前までに本小委員会のオンラインストレージまでアップロードお願いいたします。